

現代日本語の類義表現に関するテキスト言語学的研究

—「焦点を当てる」と「焦点を置く」に着目して—

吉本秋水 (高知県立大学大学院人間生活学研究科)

A Text Linguistic Analysis of Synonymous Expressions in Present-Day Japanese, with Special Reference to *syooten o ateru* and *syooten o oku*

YOSHIMOTO Shuusui (University of Kochi Graduate School of Human Life Science)

要旨

現代日本語の類義表現として「Aに焦点を当てる」と「Aに焦点を置く」という形式が見られ、いずれも「Aを議論の対象とする」という意味で使用されていると考えられるが、これらの使い分けに関する記述は国語辞典や類義語辞典等には見られない。本研究ではその使い分けを規定する要因をテキスト構造の観点から明らかにする事を目的とする。そのため、編集の強弱という点で異なる性質を持つ2つのコーパス『ヨミダス文書館』と『筑波Webコーパス』を利用して用例採取を行い、文脈を構成する情報を基準とする分類を試みた。その結果ある目的が先行文脈において示されている場合、主にその目的達成の為の手段・観点に対して「焦点を当てる」が選択され、目的そのものあるいは目的達成のために取る立場には「焦点を置く」が選択されている傾向が見られることについて論じる。加えて、この使い分けはテキストのジャンルに依存していない可能性についても言及する。

1. はじめに

現代日本語の表現には同等の意味を持ちながら、使い分けの理由が不明瞭である表現が存在する。その様な表現は、「ゆれ」や「変異」という観点から、または日本語学習者に対する日本語指導時の問題点として論じられる事がある。そのような類義表現として本研究では「Aに焦点を当てる」と「Aに焦点を置く」を研究対象とする。「焦点を当てる」および「焦点を置く」は、いずれも「Aを議論の対象にする」という意味や、次の用例(1)、(2)¹より「ある物事に注意・関心を向ける」、「ある問題点・課題を取り上げる、主題にする」という意味で使用されていると考えられる。

- (1) 三宅氏は、野田氏の「原点」の地に立ち、野田内閣を信任するかどうか、に**焦点を当てる**戦いを展開している。

(「[12衆院選・選挙区を歩く] 首相陣営「刺客」に危機感」2012.11.26)

¹ (1)、(2)は、ともに出典は『ヨミダス文書館』。本稿では新聞記事の場合は記事タイトルと日付、Web上の文書はタイトルとURLを付す。

- (2) 日本画の部で最優秀賞にあたる知事賞を受賞した伊藤明德さんの「生きる」は、サクラの老樹のコケに覆われた幹に**焦点を置いた**大胆な構図が特徴。

(「多彩に「芸術の秋」 県展、伊藤さんら知事賞＝島根」2011.11.21)

しかし、この 2 表現の意味の違いや使い分けについては、日本語母語話者でも説明が困難であると考えられる。そして、この 2 表現の明確かつ詳細な記述は辞書には見られない。そもそも「焦点を当てる」と「焦点を置く」は辞書の見出し語「焦点」の用例として採択される事は少ない²が、実際には使用が認められる。

本稿では「焦点を当てる」と「焦点を置く」はテキスト言語学的の観点に立つと使い分けの確認が可能であり、出現予測が可能である事を示していく。そして「焦点を当てる」と「焦点を置く」は、特定の条件下では言葉のゆれではなく、それぞれ異なる意味を伴って使用されている事を明らかにする。

2. 先行研究

本研究が対象とする 2 表現を直接考察の対象とした先行研究は見付かっていない。そこで、類義語に関する先行研究を参考にして本研究を進めていくことにするが、それらの研究手法には本研究の立場上、以下の留意すべき点が見られる。

第一に、分析対象とする類義語が含まれた用例を自作した上で、類義語同士を置き換える³などの操作をした際に研究者が感じる違和感を元にした意味分析が存在する。この場合日本語使用の実態を知る事が出来ない可能性がある。

第二に、実際に記述された用例を用いた分析であっても、用例出典元の年代や使用場面が統一されていないものがある。

第三に、意味分析の際に文を最大単位としている研究が見られる事である。「話し手・聞き手の意図や主張を考察し、言語の全体像に迫るためには、文を超える談話をも対象にせざるを得ない」(児玉: 2002, p. 115)という指摘がある。

以上に挙げた留意点に対しては、コーパスの利用およびテキスト言語学の観点を導入することで本研究を進める。

3. 研究方法

3.1. テキストとテキスト言語学

テキストについて Halliday & Hasan (1976, pp. 1-2)は、“A text is best regarded as a SEMANTIC unit: a unit not of form but of meaning.”と定義している⁴。当該表現が使用されている文脈を適切に捉える為に、このテキストを意味分析の単位とする。実際に文レベルの分析では文脈の意図を捉えられない例も本稿で示す。

テキスト言語学について、庵(1999, p. 15)は以下の考えを提示している。

² 1889年～2014年に出版された主要な辞書38冊を調査した結果、「焦点を当てる」は『三省堂国語辞典』(第四版、第七版)(加えて「議論の対象にする」という説明が記述されている)と『新明解国語辞典』(第三版～第六版)、「焦点を置く」は『新明解国語辞典』(第三版)において確認された。

³ 類義語同士を置き換える操作は学校教科書にも記述が見られる(『新しい国語2』(東京書籍)、『中学生の国語 二年』(三省堂)等)。これは「語感を磨き語彙を豊かにする」(『中学校学習指導要領解説 国語編』pp. 59-60.)という指針に基づいたものであると考えられる。

⁴ 本稿ではこの意味での‘text’の日本語表記を、引用部分を除いて「テキスト」と表記する。

テキスト言語学は、実時間内という制限された条件下で人間が行っているテキスト処理の過程の解明を主目的とする学問分野である。

加えて、庵(1999, p. 15)は「文法は時間の制約と独立に研究してもよいが、テキスト言語学においてはそれだけでは不十分で、極めて短時間で言語処理が可能であるのはなぜかという問いに答える必要がある」という指摘もしている。本研究は「焦点を当てる」と「焦点を置く」の2表現は母語話者でも使い分けの説明が不明瞭である事を前提にしているが、それらの表現が使用されたテキスト、特にこれら2表現が同一テキスト中で使用されている例が存在する。テキスト言語学の立場は類義表現の意味分析を考える上で、テキスト作成者の言語処理の過程を考える理論的枠組みになると考える。

そして、実時間内で作成されたテキストである用例をコーパスから採取する事で、テキストの使用場面・年代の統一を図り、日本語使用の実態に即した意味分析を行う。

また、言葉のゆれに関しては土井(1963)の提示した以下の定義を採用する。

二つの異なる言語形式が、互に類似した意味を持つか、一方の意味や用法が変化することによって、単独でか、または他の語句と呼応して、同一共時態において、同一場面に共存する現象。(土井: 1963, p. 104)

本稿では、文脈およびテキスト構造を限定することで、2表現に使い分けが存在する事を主張し、2表現が言葉のゆれではない事を示す。

3.2. 使用コーパス

用例は報道文と Web 文書から採択する。用例の採択元となるコーパスは、読売新聞の提供する記事データベース『ヨミダス文書館』(以下ヨミダス)と、筑波大学が構築した『筑波ウェブコーパス』(以下 TWC)を用いる。共に Web サイト上から記事および用例を得る。用例抽出時の注意点として、①外国語文書の日本語翻訳の除去、②冗長的な表現や誤植を含むテキストも採択の対象とする(記述的立場に基づく)、の2点を挙げておく。特に①に関して、新聞記事の場合は日本政府と外国政府との共同宣言文の日本語訳も記事として収録されている。また TWC の検索結果で表示された用例および Web サイトのタイトルや URL だけでは、翻訳文であるかの判別が難しいテキストが存在するため、出典元の Web サイトの確認が必要となる。

なお、本稿では「焦点を当てる」と「焦点を置く」が対象とする物(「Aに焦点を当てる」のAに相当する物)を「焦点対象」と呼ぶことにする。

3.3. 分析方法

分析にあたっては、先ずテキスト中の文脈を構成する情報を基準とする分類を試みた。具体的には、焦点対象が文脈中でどのような重要度を伴って扱われているのかを分類した。テキスト中で焦点対象以外にも問題点や課題等を挙げている場合、それらと焦点対象との重要度の大小関係に着目した。更に、ある目的が文脈において示されている場合、焦点対象が目的、その目的達成の為の手段・観点、あるいは目的達成のために取る立場のいずれに該当するのかを分類した。そして、「焦点を当てる」と「焦点を置く」の使用傾向を分析した。

4. 新聞記事を用いた分析

ヨミダスでは1986年以降の記事を参照可能である。その内「焦点を当てる」が用いられている記事は3602件存在する(2013年7月現在)。そのうち、2012年1月1日から2012年12月31日までの、計142記事を分析対象として用いた。一方「焦点を置く」が用いられている記事は65件存在する(2013年7月現在)。ただし、2012年での使用例は見られない。また、ヨミダスに収録されている記事中での使用頻度も少ないため、ヨミダス収録分の全記事にあたる1986年以降の全65記事を対象に用例を抽出した。

次に、抽出した用例から、「焦点を当てる」と「焦点を置く」の焦点対象に傾向があるかどうかを調べた。その結果、焦点対象そのものに傾向や使い分けの規則は観察されなかった。

続いて、焦点対象の扱いに着目して分析を行った。初めに、焦点対象の重要度に関する特徴を示す。

- ・ 焦点を当てる: 単独使用時に、焦点対象を強調して取り上げるが、他の問題点・課題と比較して、焦点対象の重要度の大小を含意しない。
- ・ 焦点を置く: 単独使用時に、焦点対象を強調し、且つ、他の問題点・課題よりも重要度が大きい事を含意する事がある。

特にテキスト中に目標・目的、目標達成の為の手段・観点、目標達成の為の立ち位置を示す表現が出現する場合(207記事中58記事)には、次の対比が観察された。

- ・ 焦点を当てる: 手段・観点を焦点対象とする
- ・ 焦点を置く: 目的・目標を焦点対象とする

これらのことを以下に代表的な用例を挙げて論じる。

用例(3)は党首討論に関する記事であり、目的と目的達成の手段が示されている。

- (3) 野田首相が目指す消費税引き上げと、自民党の谷垣総裁が求める衆院の早期解散をともに満たす“解”はあったのか。首相と谷垣氏の25日の極秘会談は、3月以降の「消費税政局」を前に、互いに接点を見いだそうとする狙いがあったとみられる。29日の党首討論は極秘会談でのすり合わせも反映し、首相と谷垣氏が消費増税の必要性で認識を共有するなど、議論がかみ合う場面もあった。(中略) 会談で合意点があったのかどうかは明らかになっていないが、29日の党首討論では、首相と谷垣氏の接近を印象づける場面もあった。谷垣氏の討論は、前回討論とは違い、「消費増税はマニフェスト(政権公約)違反」という理屈での解散要求を抑制。社会保障・税一体改革の中身の議論に**焦点をあてた**。

(「党首討論 消費増税 必要性は共有 首相・谷垣氏 極秘会談の影響か」2012.03.01)

このテキストでの先行文脈から読み取れる自民党の谷垣総裁の目的は、首相に対する解散要求を通す事である。その為の理屈(=手段)であるが、記事では前回の党首討論で出された「消費増税はマニフェスト違反である」という主張から「社会保障・税一体改革の

中身の議論」に変更されていることが判る。この「中身の議論」が焦点対象となっている。そして、この焦点対象以外にテキスト中で挙げられた問題点・課題が前回討論までの理屈である「マニフェスト違反」であると考えられる。

29日の党首討論において、谷垣総裁が考える衆院解散の理屈は「中身の議論」に変更された。これは首相と谷垣総裁の間で「消費増税の必要性」というのは共通認識として持っているのにも拘わらず、解散要求でマニフェスト違反を主張してしまうと、自民党谷垣総裁の立場をも否定することになる為である。

また、「中身の議論」が「マニフェスト違反」よりも重要度が高いということまでは判断が難しい。それは、一度はマニフェスト違反を主張した都合上、社会保障問題等での主張に舵を切ったのはやや消極的な印象をこの記事から受けるからである。

次の用例(4)はシドニー五輪開催に向けての警備体制に関する記事である。

- (4) 五輪警備を統括するオリンピック警備指令センターの、ポール・マッキノン指令は、シドニー五輪期間中のテロリズム対策が、海外からのテロリストの潜入を防ぐ水際作戦に**焦点を置く**と語る。「豪州国内にテロが巣くうというより、海外からテロが入り込まれる可能性の方が深刻だ。我々は、米国、カナダ、英国などの諜報（ちょうほう）機関と情報交換しながら、まず、危険分子の入国を許さないことを目指す」。狭き門の空路に比べ、海からの侵入は比較的容易で狙われやすい。R I Bを使ったテロ対策は、そんな諜報活動をも視野に入れる。

(「[シドニー五輪の舞台裏] (1)テロへの備え 秘密兵器で水際作戦 (連載)」2000.08.15)

このテキストでの目標・目的は「五輪期間中のテロリズム対策」である。焦点対象となっている「海外からのテロリストの潜入を防ぐ水際作戦」は「テロリズム対策」を行う上での立場であると、文脈上考えられる。そして、その目的達成の為の手段が「(米国、カナダ、英国などの諜報機関と情報交換をしながら) 危険分子の入国を許さないこと」である。

また、「まず」という表現も用いられており、記事上からは他のテロリズム対策の存在も想起させられるが、それらの対策よりも「テロリストの入国阻止」が重要視されていると読み取ることが可能である。

5. Web ページの文書を用いた分析

次に、TWC から抽出した用例を用いた分析結果を示す。「焦点を当てる」の頻度は 6316 で、その内 245 件を用例採択した。「焦点を置く」の頻度は 354 であり、114 件を用例採択した。用例採択にあたって、TWC の検索結果と共に表示される出典元の URL も辿り、リンク切れでない場合は出典元から用例採択を行った。

続いて、「焦点を当てる」と「焦点を置く」で焦点対象の扱いに着目して分析を行った。着眼点は、新聞の場合と同じである。分析の結果、以下の特徴が観察された。

- ・ 焦点を当てる: 単独使用時に、焦点対象を強調するが、他の問題点・課題と比較して、焦点対象の重要度の大小を含意しない。また、「焦点を当てる」が用いられる事で、他の問題点・課題が議題から排除される事があるが、一時的な印象がある。
- ・ 焦点を置く: 単独使用時に、焦点対象を強調し、且つ、他の問題点・課題よりも重要度が大きい事を含意する事がある。

新聞記事の分析と同様の結果が得られた。新聞記事では「焦点を置く」に、焦点対象以外の問題点・課題よりも重要である事を強調する意味が観察されたが、Web 上のテキストからは「焦点を当てる」にも同様の意味が観察された。その場合、テキスト内で焦点対象とならなかった問題点・課題に対しては、次回以降で議論の対象とするなど、一時的に焦点対象となっている例が見られた。これらの事を、以下に用例を挙げて論じる。

用例(5)はマンション管理人の、廊下上の私物に対する苦情への解決策が主題となっているテキストである。

- (5) 近くにあるマンションの中で、「ここの管理は素晴らしい」と思えるところがあります。T急さんが管理するマンション(A)です。T急さんをヨイショする気はありませんが、「いいものはいい」と評価させていただきます。ただし、全部のT急さんがいいわけではなく、「だめだな、ここは」というマンションもよそにはあります。とにかく、今回は、この素晴らしさに**焦点をあてます**。今、当マンションでは、「廊下上の私物」について論争しています。管理組合がずっと放置していたために、あまりにもひどい状況になったからです。

(規則 管理人はつらいよ <http://tsuraiyo.com/topic6606REIGAI.html> リンク切れ)

ここでの焦点対象は、マンション A の「素晴らしさ」である。テキストの文脈上、テキスト作成者のマンションでの廊下上の私物問題を解決するための手段・方法として、マンション A の管理体制を用いるということだと考えられる。また、このテキストではマンション A の「だめだな、ここは」という難点を挙げながらも、「今回は」その難点を排除し、良い面だけを主題にしている。このテキストの主旨は、マンション A の良い面から、自分の管理するマンションを改善する手本にする事である。その主旨だけを考えると、マンション A の難点を挙げる必要はないのだが、あえて記述している事で、難点も良い面もテキスト作成者にとっては共に重要な点であるという事が窺える。従って、ここでは一時的にマンション A の難点は議論から排除されているが、良い面である「素晴らしさ」と同様に重要である事に変わりはない。

次の用例(6)からは、文レベルはなく、テキストレベルでの分析が重要である事が判る。これは部下や同僚から報告を受ける際に、それがたとえ良くない報告であっても自発的に正確な報告を受ける方法に関するテキストである。テキスト作成者は自身の子どもが通知表を貰ってきた際のやりとりを例に挙げて説明している。

- (6) このような部下やメンバーがいます。これをそのまま報告したらきつと怒られる。だから、真実を少し変えて、上司に怒られないように報告をしよう。(中略) うちの子ども達は、必ず通知表を妻と私に堂々と見せてくれます。しかも、嬉しそうに見せてくれます。褒められるような成績なのか?という、これがそうでもないんですね。私は学習塾の経営もしていますので、通知表には敏感でいないといけません。特に関心するのは、小学生に関しては、あまり通知用の中身には興味がありません。(中略) そうです、私は各教科の◎○△などはあまり見ていないのです。(変な親ですよ) それより、まずは一学期きちんと学校に行ったことを認める。先生が褒めてくれる部分に**焦点を当てる**。その上で、夏休みはどうするの?と聞いて、子どもなりの

目標や計画を聞いて終わりです。以前、「お前、すごいな～、こんなに○があつて!!」と言って褒めたら、「ちゃんと見てよ、○より◎のほうがいいんだよ!」と子どもに言われたこともあります。

(リーダーのための人材活用術 <http://manpower.dreamstudy.jp/article/14063853.html>)

このテキストで「焦点を当てる」が使用されている文とその前後の限られた部分だけを読むと、テキスト作成者は通知表の成績欄よりも、焦点対象となっている「先生が褒めてくれる部分」の方を重視しており、成績はないがしろにしていると読み取れる。「焦点を当てる」も、先に挙げた「他の問題点・課題と比較して、重要度の大小を含意しない」という用法からも外れている様に見える。しかし、この用例(6)のテキスト全体から明らかになるのは、テキスト作成者がこの例を持ち出した本意は、敢えて成績に触れない事で子ども自らが「褒められるような成績」ではなくても、自ら積極的に成績を申告するようになるという事である。従って(6)での「焦点を当てる」は焦点対象だけでなく通知表の成績部分も同様に重要視していると考えられる。焦点対象となっている「先生が褒めてくれている部分」を褒めることが、子どもからの自己申告を促す手段である。

この(6)は、コーパスから抽出した用例に基づく分析の注意点も提起される。TWCで見出し語を検索した場合、結果として得られる用例は見出し語を含む文とその前後1文ずつである。仮に本研究で当該表現を含む3文のみを用例として分析を行うと、異なる結果を得る事になる。検索結果から表示された用例だけでなく、用例の参照元となったWebページの本文も可能な限り参照して、テキストの全体像を把握する事が必要となる。

次の用例(7)は、大学の研究科の紹介文である。本研究ではTWCから得られた用例は、新聞記事よりも比較的統制の弱いテキストであるとしているが、この用例(7)は大学の紹介という性格上、テキスト作成後に校閲がされていると考えられる。従って、Web上の文書の中でも統制が比較的強いテキストである。

(7) 機能の創生

ものの創生の基礎である機能に**焦点を置き**、過程、構造、分子の重層した視点から、それぞれと密接な関係を持つ生産、材料、科学、評価の分野を対象とする研究分野から構成される。機能の高度な理解とそれに基づいた評価を統合し、新しい機能の創生機構を生み出すことを目的とした研究をおこなう。

(横浜国立大学大学院工学研究科 | 大学院工学研究院概要 | 組織

<http://kenkyuin.eng.ynu.ac.jp/outline/organization/index.html>)

この用例(7)は、「ものの創生の基礎である機能」の高度な理解という前提の元で、「新しい機能の創生機構を生み出すことを目的とした研究をおこなう」と、目的を明記しているテキストである。その目的達成の為の手段・観点は「過程、構造、分子の重層した視点」である。

最後に、同一テキスト内で「焦点を当てる」と「焦点を置く」の2表現が出現する用例を分析する。新聞記事からの用例は、テキスト内での当該表現の出現は、どちらか一方だったが、TWCでは複数例得る事が出来た。また、用例(8)、(9)は、ともに目標・目的、目標達成の為の手段・観点、目標達成の為の立ち位置が示されている。

(8) 2010 年度実施計画

本年度は、次年度の本格的な現地調査に向けて、グジャラート州東部のアーメダバード県において、予備的調査を実施する。

(中略)

製作現場において、実際に製作に従事し、手工芸品の素材、道具、技術に**焦点をおく**と同時に、作業過程の中から「ものづくりの勘所」「作り手個人の創意工夫」について観察分析をおこなう予定である。また、同時に調査地への経路となるデリーやムンバイなど大都市においても、商品としての手工芸品についての流通経路や消費者の動向にも**焦点をあて**、次年度の調査へ向けての予備的聞き取り調査を実施する予定である。

(国立民族学博物館 | 研究部: 科学研究費補助金による研究プロジェクト

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/22720075.html>)

(9) 魂のカウンセリングは一般的なカウンセリングとは違います。

一般的なカウンセリングでは、満たされなかった感情を追体験することや、問題の原因を知ること、過去のトラウマ(記憶)を解消することに**焦点をおきます**が、ここでは、それらの奥にある、本当の「私」=魂に先に**焦点をあて**ていきます。なぜならば「私」が育ってしまえば、過去のトラウマも、今、抱えている問題も、そこを理解し、許していかれるようになるからです。過去のトラウマや、問題、悩み、エゴ(パターン)が悪いのではなく、本当の「私」が育っていないことでそれらが自分を苦しめているということです。

(伊藤洋子 魂の道場・カウンセリング-システム・料金 <http://ponta55.com/system.html>)

用例(8)は次年度の本格的な現地調査に先立って行う予備的調査が大きな目的となっている。その一環として実際に工芸品の制作に従事するが、その立ち位置を「手工芸品の素材、道具、技術」(「**焦点を置く**」の焦点対象)に設定している。また、「**焦点を当てる**」の焦点対象である「流通経路」と「消費者の動向」を採り上げることは、次年度への調査に向けた予備的聞き取り調査を行う為の手段・観点であると考えられる。

用例(9)では、「一般的なカウンセリング」の目標・目的が「過去のトラウマ解消」(「**焦点を置く**」の焦点対象)である。一方で「魂のカウンセリング」が「一般的なカウンセリング」と異なる点は、手段・観点が「本当の「私」=魂」(「**焦点を当てる**」の焦点対象)という点である。

この用例(8)と(9)は、TWC からの用例では 2 例のみであったが、同一テキスト内で「**焦点を当てる**」と「**焦点を置く**」が使用されているテキストである。これら以前の用例では、テキスト構造上「**焦点を当てる**」と「**焦点を置く**」の使い分けの要因を、それぞれ別個のテキストによる傾向から論じてきた。そこから、テキスト内容に目標・目的、目標達成の為の手段・観点、目標達成の為の立ち位置が示されている場合、「**目標達成の為の手段・観点到焦点は当てられる**」、「**目標または目標達成の為の立ち位置(前提)に焦点は置かれる**」という傾向が見られた。この 2 例から予測可能な事は、当該 2 表現を両方知っているテキスト作成者も、その傾向に沿ったテキスト処理を施した結果であることが推察される。

6. 結論

本研究により、「**焦点を当てる**」と「**焦点を置く**」には、「ある物事に注意・関心を向け

る」、「ある問題点・課題を取り上げる、主題にする」という共通する意味をもつと共に、以下の特徴が明らかになった。

- ・ 焦点を当てる: 単独使用時に、焦点対象を強調するが、他の問題点・課題と比較して、焦点対象の重要度の大小を含意しない。また、「焦点を当てる」が用いられる事で、他の問題点・課題が議題から排除される事があるが、一時的な印象がある。
- ・ 焦点を置く: 単独使用時に、焦点対象を強調し、且つ、他の問題点・課題よりも重要度が大きい事を含意する事がある。

更に、先行文脈において目標・目的、目標達成の為の手段・観点、目標達成の為の立ち位置が示されている場合、更に同一テキスト内に当該 2 表現が出現していても、以下の使い分けが予測可能であることが示唆された。

- ・ 焦点を当てる: 手段・観点を焦点対象とする
- ・ 焦点を置く: 目的・目標、または目標達成の為の立ち位置（前提）を焦点対象とする

テキスト構造を限定する事で、「焦点を当てる」と「焦点を置く」に使い分けが存在し、テキスト内での出現予測が可能であると考えられる。同時に、先に挙げた土井(1963)の提示した言葉のゆれの定義の条件である「二つの異なる言語形式が、互に類似した意味を持つ」を否定する。「焦点を当てる」と「焦点を置く」は言葉のゆれではない。

また、本研究では編集の強弱という点で異なる性質を持つ 2 つのコーパス『ヨミダス文書館』と『筑波 Web コーパス』から用例採択を行った。その 2 つのコーパスから得た用例を分析した結果、「焦点を当てる」と「焦点を置く」に同様の傾向が見られたということは、編集の強弱という観点からはテキストのジャンルに依存しない傾向が可能性として窺える。

本研究より、一見すると無秩序に用いられているかに見える言語使用にも、文を超えた範疇であるテキストの持つ情報が関与し、人間の言語処理の過程を説明出来るのではないかと考える。

7. 今後の検討課題

本研究では類義語に関する先行研究の留意点を挙げながらも、検討が不十分な点がある。

第一に、用例採択において新聞記事での「焦点を当てる」の用例出典年が 2012 年なのに対して、「焦点を置く」は 1986 年から 2012 年までの 26 年間の幅がある。更に、編集の強弱という点で、Web ページと新聞記事の 2 つのコーパスを用いたが、Web ページの場合、テキスト作成の日時が不明な場合がある。TWC 自体は 2013 年に Web 上に存在した文書を元に構築されており、テキストの作成日時を 2013 年であることを保証するものではない。この為、用例の採択年代にずれが生じており、共時性の面で問題が残る。

第二に、Web 上のテキストを編集の弱い用例としたが、その中でも本稿で例示した用例(7)のように編集が比較的強いテキストも存在するため、更なるテキストの分類が必要である。また、編集の強いテキストとして新聞記事(報道文)を用いたが、一社のみの記事であり、その他の編集の強いテキスト(法令文書等)を視野に入れた分析ではない。この為、ジャンル依存性の点で問題が残る。

以上の点を今後の検討課題とする。

参考文献

- 庵 功雄(1999)「テキスト言語学の観点から見た談話・テキスト研究概観」『言語文化』, 36, pp. 3-19. (<http://hdl.handle.net/10086/8622/>よりダウンロード可能)
- 児玉徳美(2002)『意味論の対象と方法』.くろしお出版.
- 土井洋一(1963)「音韻交替についての一解釈(上):バ・マ行音の〈ゆれ〉をめぐって」『研究年報』 10, pp. 103-123.
- Halliday, M. A. K. and Hasan, Ruqaiya(1976) *Cohesion in English* Longman.

教科書等

- 中渕正堯、長谷川孝士、尾木和英、他(2012)『中学生の国語 二年』株式会社三省堂.
- 三角洋一、相澤秀夫、有澤俊太郎、他(2012)『新しい国語 2』東京書籍株式会社.
- 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 国語編』株式会社東洋館出版社.

辞書

- 「焦点」.(1993). 見坊豪紀、金田一京助、金田一春彦、柴田 武、飛田良文 編、『三省堂国語辞典 第四版』(p. 546). 三省堂.
- 「焦点」.(2014). 見坊豪紀、市川 孝、飛田良文、山崎 誠、飯間浩明、塩田雄大 編、『三省堂国語辞典 第七版』(p. 704). 三省堂.
- 「焦点」.(1981). 見坊豪紀、金田一春彦、柴田 武、山田忠雄、金田一京助 編、『新明解国語辞典 第三版』(p. 555). 三省堂.
- 「焦点」.(1989). 金田一京助、柴田 武、山田明雄、山田忠雄 編、『新明解国語辞典 第四版』(p. 608). 三省堂.
- 「焦点」.(1997). 金田一京助、山田忠雄、柴田 武、酒井憲二、倉持保男、山田明雄 編、『新明解国語辞典 第五版』(p. 674). 三省堂.
- 「焦点」.(2005). 山田忠雄、柴田武、酒井憲二、倉持保男、山田昭雄 編、『新明解国語辞典 第六版 (机上版)』(p. 715). 三省堂.

コーパス URL

- 読売新聞『ヨミダス文書館』<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』
<http://corpus.tsukuba.ac.jp>